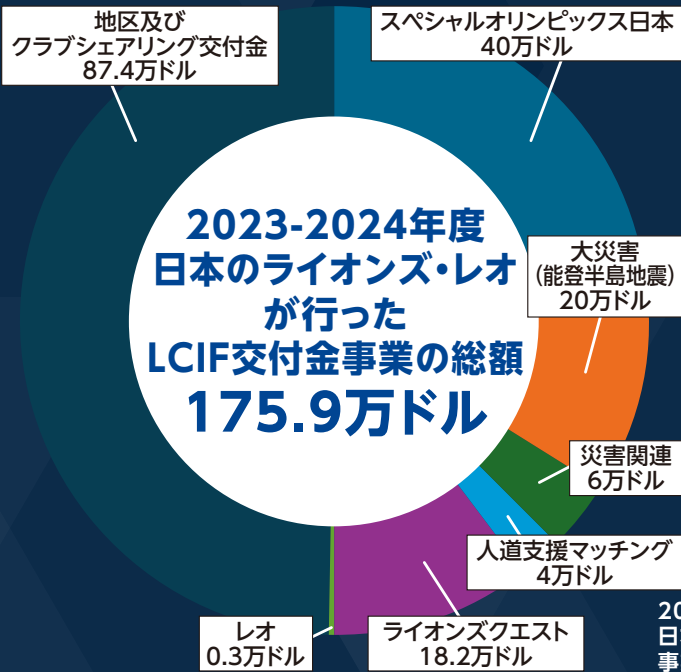


Doing- 交付金事業による奉仕

2023-2024年度、日本のライオンズ及びレオは、201件、総額175万9,468ドルの各種交付金事業を行い、日本のみならず世界各地の地域コミュニティの課題解決や人道支援に貢献しました。最も活用された地区及びクラブシェアリング交付金では、その多くが青少年、災害支援、障がい児・者支援に使われています。皆様のDoingに感謝いたします。

シェアリング交付金分野別内訳

分野	交付額	%
災害支援	\$134,333	15.4%
障がい児・者	\$93,704	10.7%
小児がん	\$41,842	4.8%
食料支援	\$34,653	4.0%
環境保護	\$37,101	4.2%
青少年	\$349,059	39.9%
視力保護	\$10,000	1.1%
糖尿病	\$4,036	0.5%
高齢者	\$7,030	0.8%
子ども	\$38,095	4.4%
その他	\$124,185	14.2%
合計	\$874,038	100.0%



複合地区別 件数及び金額

MD	交付件数	交付金額
MD330	32	\$142,614
MD331	12	\$32,891
MD332	12	\$93,306
MD333	22	\$153,577
MD334	38	\$772,334*
MD335	44	\$329,382
MD336	25	\$133,990
MD337	16	\$100,624
合計	201	\$1,759,468

*スペシャルオリンピックス日本への40万ドルを含む



2023-2024年度
日本の交付金
事業一覧はこちら

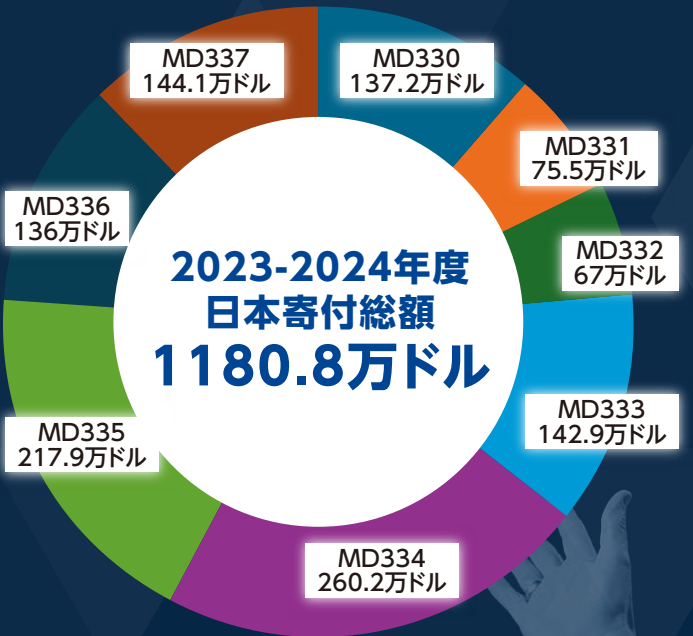
皆様の寄付に感謝して

「AWESOME! 皆さんのおかげで、この一年は本当に最高でした!」

第106回ライオンズ・インターナショナル国際大会(オーストラリア・メルボルン)で、当期寄付目標7,000万ドルを超える7,500万ドルの達成を会場に伝えたブライアンE.シーハンLCIF理事長は、喜びを爆発させ、世界中の寄付者の支援を称えました。LCIFはライオン、レオ、クラブ、地区、複合地区、そしてその他大勢の皆様からの温かい寄付に感謝いたします。全ての寄付がLCIFの寄付目標達成に貢献し、世界中の人々の生活改善を可能にしています。

Giving- 寄付による奉仕

ライオンズの人道奉仕を支援するLCIFの交付金は、皆様の寄付により成り立っています。2023-2024年度、日本は最大寄付国として、世界寄付総額の5分の1に当たる1,180万8千ドルを寄付してくださいました。皆様のGivingに感謝いたします。



複合地区別 2023-2024年度 寄付額

MD330	\$1,372,063
MD331	\$755,200
MD332	\$670,087
MD333	\$1,429,210
MD334	\$2,601,821
MD335	\$2,179,059
MD336	\$1,359,586
MD337	\$1,440,972
合計	\$11,807,999

LCIFへの寄付は100%助けを必要とする人々の支援に使われています
～LCIFの財務管理～

LCIFは第三者による監査、LCIF理事会監査委員会及び財務委員会による厳しいチェックのもとで財務管理を行っています。寄付は寄付者の意思に基づき、無駄なく必要とする人々のために使われることが財団の使命だとLCIFは考えています。「寄付は100%、支援を行うプログラム*に使われています」と言える財団は、あまりありません。LCIFはこの約束を維持するために、経費を抑え、注意深く資金を運用しています。その努力の結果、チャリティ評価団体「チャリティナビゲーター」から最上位の4スターを獲得**しています。

*プログラムには、①交付金、②交付金運営にかかる経費(ライオンズクエスト及びグローバル交付金)、③交付金事業のモニタリング及び事業評価が含まれます。



**チャリティナビゲーターの
LCIF評価はこちら

希望を届ける交付金事業

紡ぐ、つなぐプロジェクト(小児がん支援)
333-C地区シェアリング交付金事業(DCG23147/333C)

病室と外の世界をつなぐテレボは、病気で長期入院中の子どもたちに、家族や病院関係者以外の人との交流と新たな学びの機会を提供します。333-C地区は千葉県唯一の小児がん家族会にテレボを寄贈し、県教育委員会に働きかけて2023年10月に県立高校の教室と病院にいる生徒の遠隔授業を実現させました。生徒はテレボを操作して領いたり振り向いたりして授業に参加し、休み時間には友達とおしゃべりを楽しみました。また、2024年4月には入院中の幼い子どもたちの動物公園の見学が実現しました。病棟では、映し出されたゾウやライオンに「あ!見えた~!!」と喜ぶ子どもたちの歓声が響きました。今後もテレボ事業の継続と拡大にライオンズの支援が期待されています。



バン格拉ディシュ・アイキャンプ(視力保護)
337-C地区シェアリング交付金事業(DCG23118/337C)

貧しさゆえに適切な医療を受けられないバン格拉ディシュの視覚障がい者に眼科医療を提供するアイキャンプを、337-C地区は神崎ライオンズクラブを中心に2000年から行っています。今回で23回目となる本事業は、2023年11月23~26日にバン格拉ディシュ・カジプール県の3村で実施され、日本から派遣された医師、看護師、視能訓練士らが96名に白内障手術を提供しました。手術で失明を防ぎ、視力が改善すれば、社会復帰と自立した生活も可能です。現地医療従事者の育成、及び医療器材や設備整備も支援しながら、今後も毎年80~100名の視力を回復する支援が計画されています。



LCIFの希望を届けるミッション～世界で人々の生活を変える感動のストーリー～

LCIF交付金事業の一つひとつに感動するストーリーがあります。ライオンズ・インターナショナル唯一国際財団として、LCIFは140万人の会員が世界各地で行う奉仕に力を与えます。奉仕に対するライオンズの熱い思いが、支援を求める何百万人もの人々の人生に明るい光をもたらす。それが1968年の財団設立以来ずっと私たちの使命を形づくってきました。LCIFは、人々の健康と福祉の改善、地域・コミュニティの強化、助けが必要な人々への支援に取り組むライオンズ及びパートナーを支援して世界平和と相互理解に貢献します。小児がん、糖尿病、災害支援、環境保護、人道支援、食料支援、視力保護、そして青少年支援でライオンズがクリエイティブに活動し、多様性を取り入れ、意味のある奉仕を推進することを支援します。ライオンズの奉仕のストーリーはLCIFの使命を語り、私たちの進むべき道を示してくれるものなのです。



インドでの飢えとの闘い

LCIFとMD322のライオンズは、地元企業ノリス・テクノロジーとパートナーシップを組み、西ベンガル州の都市シリグリで十分な食品を手に出れない人々に主食のロティ（パン）を配布しています。運搬車10台が地域を巡り、ロティと野菜カレー、ピクルスを届けます。本事業を通じて毎日約5,000食を提供し、インドの飢えと栄養不足の解消に取り組んでいます。



洗たくとシャワーでリフレッシュ

201-V3地区のライオンズは、オーストラリア・モーニントン半島のホームレスの人々のために、マッチング交付金1万2,580ドルを活用し、ユニットバス2台とランドリールームを完備したトレーラーを購入しました。地元の民間団体が運営する「サザンペンシュラ・ランドリー・シャワー」プログラムと一緒に、ホームレスの人々が心身共にリフレッシュできるサービスを提供しています。これまでに360人以上が利用しています。



ライオンズクエストで世界の若者に力を与える

今年は、かつて「クエスト・インターナショナル」という団体が行っていたクエストプログラムに、LCIFが最初の交付金を提供してから40年目の節目に当たります。ライオンズクエストでは最近、より効果的な授業を目指してカリキュラム、研修及び補助教材の全面改訂が行われました。新カリキュラムはよりダイナミックで、生徒を中心に据える一方で、授業時間を短くし、内容を整理しました。このように進化を続けながら、ライオンズクエストは子どもたちがいじめや薬物乱用を防ぐスキルを身に付け、自ら人生をひらく支援をしています。



小児がん治療中もずっとそばに

イタリア・トリノのレジナ・マルゲリータ小児病院では、小児がん患者に造血幹細胞移植治療を行っています。治療を受けた子どもは、移植後約1ヵ月間、無菌室に隔離されて過ごしますが、その間に家族や学校の先生たちとコミュニケーションをとるシステムが故障して使えないことが多発していました。その状況の改善に、108-IA3地区のライオンズは小児がん交付金2万1,659ドルを活用し、システムのアップグレードを支援しました。



キャンプ・スウィート・ライフの拡大

キャンプ・スウィート・ライフは、アメリカ・ミネソタ州南部で8～15歳の1型糖尿病の子どもたちが病気の管理を学ぶ宿泊型キャンプです。5～7歳の子どもには日帰りキャンプも提供しています。5M-2地区のライオンズは、このキャンプの拡充の重要性を認識し、LCIF交付金の支援を得ることを決めました。LCIFは医療用品、カウンセラー研修、事業費用として糖尿病交付金3万7,500ドルを提供し、キャンプでの経験がより良いものになるよう支援しています。記事はこちらから



能登半島地震・水害被災者への支援

2024年1月1日、能登半島で発生した大地震は、死者228人（災害関連死を除く）、負傷者1,394人を出す深刻な被害（2025年1月28日・内閣府発表）をもたらし、多くの人々が何ヵ月にも渡り避難所暮らしを余儀なくされました。後に発生した水害への支援もあわせて、LCIFはこれまでに30万ドルの大災害交付金を提供し、LCIF能登半島地震・水害復興支援委員会を通じて、水、食料、衛生用品、使い捨てカイロ、段ボールベッド、土嚢袋などを軽トラックで里山の被災者に届け、仮設住宅に除雪機を整備するなどの緊急かつ日々の生活を支える支援を行ってきました。活動の中間報告はLCIF.jpに掲載しています。



能登復興支援
中間報告はこちらから

史上最悪の洪水からの復旧

2024年4月、ブラジルでの集中豪雨は多くの死傷者を出す大洪水を発生させました。少なくとも150人が犠牲となり、50万人が緊急避難を余儀なくされる中、雨は5月に入っても降り続けました。自宅を失い、自炊もままならない被災世帯に、現地ライオンズは大災害交付金10万ドルを活用し、簡易コンロなどの炊事用具を提供しました。



ザンビアでの包括的視力保護サービスの提供

ライオンズ・エイド・ザンビア（ザンビアを救うためにライオンズが立ち上げた非営利団体）は、新たにパートナーとなった「盲人のためのラベル・ファンド」と共に、ザンビア西部州に大規模な包括的視力保護プロジェクトを始動します。プロジェクトでは、サービスの行き届かない農村地帯で積極的なスクリーニング検査と研修プログラムを提供し、これまでに2万5千人が検査を受け、眼科医療スタッフへの白内障手術の訓練も行われています。



環境にやさしく、インクルーシブな遊び場を作る

移動に困難を抱える住民のニーズを認識したカナダ5SKN地区のライオンズは、LCIFから提供されたマッチング交付金8万4,630ドルを活用し、障がいを持つ子どもたちも一緒に楽しめる遊び場を作りました。一般的な公園の舗装には様々な資材が用いられますが、この遊び場は、タイヤ1万本とナイキのシューズ1万3,000足をリサイクルしたゴムで完全に覆われ、環境保護とここで遊ぶ子どもたちの安全確保を見事に実現しています。記事はこちらから

